

高校生ロボット相撲全国大会 中津東が準優勝



自立型で準優勝した中津東チーム(中央の2人)と、自立型・ラジコン型でそれぞれ3位に入った大分工業チーム=27日、ものづくり大学

初めて初戦突破、快進撃

【東京支社】高校生の作ったロボットが土俵上でぶつかり合う「第24回全日本ロボット相撲大会全国大会」が27日、埼玉真行田市のものづくり大学で開かれ、中津東高校ロボット部(平井敏之顧問、5人)が自立型の部で準優勝に輝いた。全国大会で初戦を突破したことのない「伏兵」が、強豪を次々と破る快進撃。大分工業高校未来ロボット工学研究部(松永芳史顧問、22人)も2部門で3位に入り、大分の高校生の底力を見せつけた。

大分工、2部門で3位

直径1・54センチの土俵が舞台。た「自立型」、土俵のそばで生自動で動くプログラムを内蔵し、徒が操作する「ラジコン型」の



自立型で準優勝した中津東高校の中野樹紘君(中央)と田上悟士君(左)

2部門で開かれ、地方大会計83校(257台エントリー)を勝ち上がった各32チームが2本先取のトーナメント方式で競った。

中津東の自立型ロボット「雷神1」は、3回戦までいずれも2本先取と盤石の相撲を披露。決勝戦の四日市中央工業(三重県)戦では1本目を先取したが、2本目は勢いよく進んで土俵を割り、タイに。その際、機器が故障し、惜しくも3本目を奪われた。

操縦者の中野樹紘君(17)、補助員の田上悟士君(17)とともに電気科2年IIは「決勝では電圧を上げてスピードを最大限出せるよう賭けに出たが、モーターに負担がかかり故障してしまっただ」と唇をかんだ。平井顧問は「初戦突破を目標にしてきた。生徒たちはよく頑張った」とたたえた。

昨年、ラジコン部門で準優勝している大分工業高は、準決勝で涙をのんだ。同校は12月18日の全日本大会(大学生・社会人も参加)にも出場が決まっている。松永顧問は「今回は出場校のレベルが高く、心理戦をどう乗り切るかが勝敗を分けた。12月の全日本大会では両部門でリベンジを果たしたい」。

大会には他に県内から津久見高校も出場。ラジコン型でベスト16入りした。(吉良政宣)